



令和6年4月22日

福岡県内経済情勢報告

令和6年4月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

福岡県内経済情勢報告（令和6年4月）

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

| 項目 | 前回（6年1月判断） | 今回（6年4月判断） | 前回比較 |
|------|-------------|---------------------------|-------------|
| 総括判断 | 緩やかに回復しつつある | 一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある | → (表現変更) |

(注) 6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回（6年1月判断） | 今回（6年4月判断） | 前回比較 |
|------|----------------------------|------------------------------|-------------|
| 個人消費 | 物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している | 物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。 | → (表現変更) |
| 生産活動 | 緩やかに持ち直しつつある | 持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | ↘ |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している | → |

| | | | |
|------|-----------|-----------|---|
| 設備投資 | 5年度は増加見込み | 5年度は増加見込み | → |
| 企業収益 | 5年度は増益見込み | 5年度は増益見込み | → |
| 住宅建設 | 前年を下回っている | 前年を下回っている | → |
| 輸出 | 前年を上回っている | 前年を上回っている | → |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、ラグジュアリーや化粧品が好調なことに加え、インバウンドの増加が売上を押し上げ、前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えが見られるものの価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、人流増加やインバウンドの回復により前年を上回っている。乗用車販売は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等により、このところ前年を下回っている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売及びホームセンター販売は、需要の一巡などから前年を下回っている。旅行取扱高は、一部に旅行支援事業の反動減がみられるものの堅調に推移している。

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

輸送機械の自動車は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等により生産活動が低下している。鉄鋼は、建築資材の需要などが伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイスは、受注の減少がみられている。

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年1-3月期

5年度は、製造業は前年比10.0%の増加見込み、非製造業は同8.6%の増加見込みとなっており、全産業では同8.9%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年1-3月期

5年度は、製造業は前年比10.6%の増益見込み、非製造業は同15.9%の増益見込みとなっており、全産業では同14.3%の増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、貸家及び給与住宅が増加しているものの、持家及び分譲住宅が減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を下回っている。

(その他項目)

○ 企業の景況感を法人企業景気予測調査(6年1-3月期)の景況判断BSIで見ると、6年1-3月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、6年4-6月期は、「下降」超の見通しとなっている。